

広げよう、PETボトル撲滅の輪

富士宮市内中学校

望月 さん

私の家は酒屋をやっている。お店で接客をしたり、飲み物を配達したりする仕事だ。あともう一つ、自動販売機の中の飲み物のつめかえ、捨てられた缶やペットボトルを片付けるという大切な仕事もある。母は、この前、自動販売機の中身をつめかえると、気持ちよさそうな表情で帰ってきた。そして、

「ゴミ箱に捨てられているゴミが、いつもまちがえずに、分別されているの。」
と、うれしそうに言った。私は友達と遊んだ時に、缶やペットボトルは「安くておいしい」と言っていたのを思い出し、とても便利なものだなあと考えた。小学校の時、環境や自然を守るために、分別は大事と習った。

「じゃあ、分別すれば、ペットボトル飲料、たくさん飲んでいいのかなあ。」
思わずつぶやくと、母は少し困った顔をして

「分別をすることは大切だけど、そもそもペットボトル飲料を飲まないようにすることが大切だと思うよ。環境にも悪いしね。」

と言った。ペットボトルはプラスチック。確かに最近、私の周りからプラスチックが減ってきたような気がする。それは環境に悪いからで、分別しないのも環境に悪い。小学校でも習ったし、母の言いたいことは大体分かった。でも、直接、環境にどんな影響が出ているのか私は知らない。少し気になった。

そんな時、私達のもとに、ある新聞が届いた。そのニュースには「海洋プラスチック」と書かれていた。気になって読み進めると、こんなことが書かれていた。海に出たプラスチックは「マイクロプラスチック」というものになり、海にいる魚や、プランクトンの体内に取り入れられてしまうこと。一般的な暮らしをしている人が、マイクロプラスチックを取り込む量は、一週間でクレジットカード一枚分にあたること。また、この新聞を読んだ後母から聞いた話によれば、海で亀が泳いでいた時、浮いていたレジ袋を、くらげとかん違いして、食べてしまったという事件もあったらしい。それを聞いて私は少し怖くなった。便利だから、だけを理由にしてペットボトルを使い続ければ、この地球の環境は、どんどん悪くなってしまふ。もし、これから、このような被害を受けているということを知らない人が増えていったら、海が汚れてしまふ。でもきっと、ペットボトルをたくさん使っている人は多い。そう思って母に聞いてみた。

「お母さん、自動販売機のとなりに置いてあるゴミ箱、一回の仕事で

どれくらいたまっているの？」

「うーん、ゴミ袋二袋分くらいは、あると思うよ。」

びっくりした。ゴミ箱が大きいし、捨てようと思ったのに中にたくさんゴミが入っていて入らなかった、なんていう経験はないから、中のゴミの量は意識したことがなかった。それに、ゴミ箱が透明ではないものが多く、ほとんどが中が見えない。私が直接見たことがなかっただけで、実際はそんなにたくさんゴミがたまっていたんだ、と驚いた。

「あれ？でもお母さん、週に何回、中身つめかえたり、ゴミ片付けたりしてるの？」

「だいたい三回くらいかな。最近は暑いから冷たい飲み物がよく売れるんだよ。」

私は少し考えてみた。一回の仕事で出るゴミの量が二袋、それが週に三回ということは、一週間で六袋ものゴミが出ることになる。そんなにたくさんなら、いくら分別していたとしても、ゴミの量は減らないと思う。しかもペットボトル以外のプラスチック製品なんてたくさんある。レジ袋、ストロー、コップなどだ。しかも、洗って使えるものもあるけど考えてみると使い捨てが多い。これが海に浮いているのを想像すると、環境が悪くなるのはあたりまえだと思う。

どうしたら、環境が悪くならないか。そもそも海に、プラスチック

が浮いているのはポイ捨てが原因だと思う。海の近くでキャンプをしていて、そのゴミを海に捨てたりした。または、海から遠い所でポイ捨てをして、風などによって海に運ばれた。海につながる川にポイ捨てした、などパターンは様々だと思う。私も一度ポイ捨てをしてしまったことがある。今考えれば環境的にも人間的にも良くない行動だったと思う。だから、ポイ捨てをしないようにしていきたい。

あと一つは、プラスチックをあまり使わないようにすることだ。洗剤はつめかえ用を使ったり、出かける時は水筒を持ち歩くようにしたりして、プラスチックを減らした生活ができるようになりたい。自分ができるようになったら、仲の良い友達へ伝えて、友達からその友達へと、良い環境の輪をつくっていききたい。